

# 春

まだ枯葉色した  
野に春雨が降る。  
七色の光が春を呼ぶ……。



南丹の春は、明るくて気持ちがいい。  
白い雪をいただく山々を背景に、里では梅の花がちらほら、  
林の中からはウグイスの美しいさえずり、  
陽当たりのよい野辺はまるで一面がお花畑のよう。  
この生き物たちの息吹なしでは南丹の自然の美しさはありえない。

「花はまだかな」といえば、それは桜のこと。  
桜は野にあっても、暮らしの中にあっても、美しい。



多治神社の桜並木(日吉町)



大堰川の桜(八木町)



京都帝釈天石段(八木町)



文覚堂(八木町)



アイガモ農法の水田(日吉町)

紺碧の空に、  
さんさんと降りそそぐ太陽の光、  
水辺ではカジカガエルの声と  
子どもたちの笑い声がこだまする。  
青々とした田園風景、濃緑になった山々、  
草間に息づくたくさんの生命たちの競演は  
南丹の自然のちからのあらわれか。

# 夏

新緑の中、  
太公望の季節

由良川の鮎釣り(美山町)



天若地内の滝(日吉町)



ゲンジボタルが  
幻想的な光を放ちながら  
飛び交う。

木住川のホタル(日吉町)



芦生の原生林(美山町)



るり溪遊歩道(園部町)

